

HB通信

編集・発行 /
一般社団法人
ひょうご部落解放・人権研究所



〒650-0003 神戸市中央区山本通 4-22-25 兵庫人権会館 2階
TEL: 078-252-8280 FAX: 078-252-8281
e-mail: blrhg@extra.ocn.ne.jp URL: http://blrhg.org/



所長の諏訪山だより

日本政府は、うどん屋の釜

- ・「最初はグー」二度目もグーの二歳児に皆チヨキを出す春のお茶の間
(相模原市) 阿久津シナノ
- ・死の意味をいまだ知らざる七歳の少女の命を奪う銃弾 (観音寺市) 篠原俊則
(永田和宏選) 朝日新聞 2021年4月25日

朝日歌壇に並んで掲載された上の2首のうち、最初の歌を読んで微笑ましく思い、和やかとなった心が2つ目の歌を読んだ途端、瞬間冷凍されたかのように暗澹たる気持ちとなってしまった。同時代に生きる子どもなのに、どうしてこれほどの差が生じるのだろうか。子ども自身は、自分が生まれる場所も時代も選ぶことはできない。なんとも遣る方ない思いである。

日本のミャンマーへのODA(途上国援助)は、2019年度で1,893億円だったそうだ。日本はミャンマーへの最大の援助国である。また、ミャンマー国軍に太いパイプをもつ有力政治家もいるという。それにもかかわらず、日本政府がミャンマーの軍事政権に制裁措置を行ったとか、有力政治家がミャンマー国軍幹部と接触したとか、とんと聞かない。菅首相や加藤官房長官は、「注視したい」と言うばかりである。

東南アジアでは日本企業を揶揄して、「NATO」と言うそうである。もちろん北大西洋条約機構の略称ではない。繰り返し打ち合わせを要求して、意思決定が遅いことから、「No Action, Talk Only」(行動せずに話すだけ)という意味だ(産経新聞2021年3月31日)。ミャンマーにおける人権侵害に対する日本政府の態度は、まったくもって「NATO」ではないだろうか。

「大阪のしゃれ言葉」というものがある。江戸時代からあったそうだが、現在ではこれを使う人に出会うことはない。たとえば、とても博識な人に「あんた、ほんまに牛のおいどやなあ」「(モウの尻=物知り)と言ったり、急がないといけないときに「こりゃ、曲がった松の木や!」(曲がった松の木は柱にはならないので、柱にはならん=走らにゃならん)と言ったりという類である。その大阪のしゃれ言葉に「うどん屋の釜」というのがある。うどん屋の釜は、うどんを茹でるときには中にうどんが入っているが、普段は湯しか入っていない。つまり、「湯ウだけ=いうだけ」という意味で、口だけで何もしない人に「あんた、うどん屋の釜やなあ」と言うのである。

日本政府は、うどん屋の釜である。経済ばかりを優先して、人権を後回しにする。これでは、ジェンダーギャップ指数156か国中120位(2021年)という人権後進国からいつまでたっても抜け出せない。うどん屋の釜を「行動という具」が入った鍋に変えていくには、私たちの投票行動が問われるのである。

所長 石元清英

はじめてみよう！

部落問題学習、考え方・実践のヒント (その6)

当研究所では「これからの部落問題」学習プログラム作成研究会を組織し研究を重ね、2017年3月に解放出版社より『はじめてみよう！これからの部落問題学習』（2,000円+税）を刊行しました。うれしいことにご好評をいただき、2020年8月、2度目の増刷となりました。当欄では『はじめてみよう！』掲載の16のコラムを順次掲載し、部落問題の考え方のヒント、学習実践のヒントをご提供していきます。

▶『部落差別が解消した社会とは？』

／宮前千雅子（関西大学人権問題研究室委嘱研究員）

みなさんは、部落差別がない社会をどのようなものだと思いますか？ もしかしたら、みなが部落問題を知らなくなることだと思いませんか？ もしくは、被差別部落がなくなること、そう思いませんか？

部落差別がない社会を共通理解しないしていると、部落問題学習の方法論で議論が大きくなりすぎてしまう場合があります。上のような状態をめざすのであれば部落問題を学ぶことはかえって差別の存在を知らせることになるのですから、部落問題学習の必要性はありません。そうです、コラム「寝た子を起すな」論（HB通信No.33で掲載）になってしまうのです。部落差別がない社会とはどのような状態なのか、きちんと整理することは学習を進めるうえでとても重要です。

では、部落差別がない社会とはどのような社会を指すのでしょうか？ 他の人権課題を例に考えてみましょう。たとえば、障害者差別がない社会、女性差別がない社会とはどのような社会でしょうか？

みなが障害者問題を理解することにより障害者に対する差別や不平等が克服された社会、みなが女性問題を理解することにより女性に対する差別や不平等が克服された社会、となるはずで。ということは、部落差別がない社会とは、みなが部落問題を理解することにより部落出身者に対する差別や不平等が克服された社会となります。けっして部落問題を知らなくなること、ましてや被差別部落がなくなることであるはずがないのです。なくさなくてはならないのは差別であって、差別されてきた地域や人々ではありません。

そうであるにもかかわらず、被差別部落は差別を前提として存在していることから、部落問題を学ぶことは差別を拡大することにつながり、差別をなくすためには地域や共同体そのものをなくす必要がある、そう考える人が少なくないのです。しかしながらⅢ章の歴史編でも明らかにしているように、部落は単に差別される存在として残されてきたのではなく、とくに水平社創立以降は差別された歴史や経験をもとに差別のない社会という新たな地平を切り開こうとしてきました。現在も、あらゆる人権課題の克服に向けて活動している部落や部落出身者がたくさん存在します。部落には積極的な存在意義があるのです。

みなが部落問題を知ることなく差別がない（ように見える）社会と、みなが部落問題を理解したうえで差別を克服した社会、どちらがより豊かでしょう。人権が尊重される社会は、どちらでしょうか。部落問題を理解して差別を克服しようとする社会は、あらゆる人権課題の解決をめざす社会につながっています。

オンラインショップ開設のお知らせ

ひょうご部落解放・人権研究所のオンラインショップができました。書籍や会費、セミナーの代金（オンライン配信の方）などについて、色々なお支払い方法をお選びいただけます。ぜひ、ご活用ください。
<https://blrhyg.thebase.in/>





『ここまでわかった 戦国時代の天皇と公家衆たち 天皇制度は存亡の危機だったのか？ 新装版』

神田裕理編、日本史史料研究会ブックス、文学通信、2020年9月、1,485円(税込)

かなり以前、某集会で部落史の研究者が最近の研究動向について説明をしたとき、ある参加者が興奮気味に「近世政治起源説は間違いだなんて、今さら言われても困る。子どもたちに嘘を教えたことになるではないか」と食ってかかった。発言者は、^{はしご}梯子を外されたように感じたのだろう。そう言いたくなる気持ちも分からなくはないが、これは致し方ないことだ。

研究が進み通説が覆ることがある。これは自由に研究し、議論することができている証拠でもある。何十年経っても何も変わらないほうが恐ろしいことだ。変化は受け入れるしかない。そして、梯子を外されたとがっかりしないためには、勉強し続けるしかない。しかし、専門家ではない者が、研究動向を追っかけ続けるのは大変だ。ということで、最新の研究成果をまとめて紹介する便利な本がいろいろと出版されている。今回紹介する『ここまでわかった戦国時代の天皇と公家衆たち』もそんな本である。

本書は日本史学の研究団体である日本史史料研究会の企画によるもの。2014年から2018年にかけて、この研究会の企画で、一般に向けて最新の研究を紹介するシリーズ（以下、「最前線シリーズ」と略）が、洋泉社の歴史新書yとして10冊発行された。そのうちの1冊が本書である。本書以外の9冊は『××研究の最前線』という書名になっている。本書のテーマはあまりにマイナーなのであえて「最前線」とするのはやめにしたとのことだ。

ご存じの方もいると思うが、洋泉社は2020年2月、親会社である宝島社に吸収合併され消滅した。その際、洋泉社の出版物は宝島社に引き継がれなかった。そのため、マニアックなテーマをよく取り上げていた歴史新書yも新本での入手ができなくなってしまった。そのような状況のなかで、最前線シリーズについては、2020年中に『信長研究の最前線』と『南朝研究の最前線』が朝日文庫として、そして本書が文学通信より日本史史料研究会ブックスとして再刊された。出版社が次々に潰れてくなかで、良書が再び手に入るようになったことは喜ばしい。

天皇に関する研究は、戦前は皇国史観が支配するなかで憚られ、戦後は、皇国史観への反発から避けられ、その後、徐々に研究が始められたが、本格化するのは1990年代からという。以前より、戦国時代の天皇や公家衆は、「無力な存在」「風前の灯火」「お飾り」とのみイメージされてきたが、今も多くの人の認識は変わっていないだろう。そこで本書は様々な切り口による13のテーマを設定。テーマごとに、専門家が最新の研究成果にもとづき、平易に解説している。ルビをたくさん振り、さらに勉強したい人のために参考文献を各テーマの末に挙げるなど、一般読者への配慮も行き届いている。

こういう最新の研究成果をまとめて紹介する本は、多数の研究者が執筆分担をすることが多い。その際、執筆者に企画の意図が十分に伝わっていないのか（もしくは執筆者が故意に無視しているのか）、最新の研究成果の紹介はほどほどに、自説開陳に紙幅を費やしている場合もあり、がっかりすることもままある。本書の場合は、その弊をまぬがれている（少なくとも読者にそう思わせないように書いている）。これも本書の美点だ。

本書には、公家が鎧兜に身を固め、室町将軍と一緒に出陣していたことなど、一般的な公家のイメージを裏切るようなエピソードが紹介されている。固定観念を揺るがしてくれる良書である。(ka)



一般社団法人ひょうご部落解放・人権研究所

2021年度人権セミナーのお知らせ

ひょうご部落解放・人権研究所では、2021年度は人権セミナーを全5回開催します。今年度はオンラインでも配信します。たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

第1回

何が部落となったのか

—20世紀初頭における部落問題の成立

日時：2021年6月26日（土）14時～16時

講師：石元清英

（ひょうご部落解放・人権研究所所長）

場所：兵庫県立のじぎく会館 201号室

定員：50人

第2回

被差別部落女性は何にを問題にしてきたのか？複合差別の視点から

日時：2021年7月24日（土）14時～16時

講師：熊本理抄さん

（近畿大学人権問題研究所教員）

場所：兵庫県立のじぎく会館 101・102号室

定員：30人

第3回

同和対策事業から平等を考える

日時：2021年9月18日（土）14時～16時

講師：柴原浩嗣さん

（大阪府人権協会事務局長）

場所：兵庫県立のじぎく会館 201号室

定員：50人

第4回

差別糾弾と謝罪

—全国水平社創立100周年にかかわって

日時：2021年12月4日（土）14時～16時

講師：朝治武さん（大阪人権博物館理事長）

場所：神戸市教育会館 501号室

定員：40人

第5回

海を渡った被差別部落民

—20世紀初頭アメリカ出移民の歴史経験

日時：2022年3月5日（土）14時～16時

講師：関口寛さん

（四国大学准教授）

場所：兵庫県立のじぎく会館 201号室

定員：50人

■参加費

正会員：無料 一般：1000円

定期購読・学生・障害者：500円

※特別会員の皆様は、2021年度の会費請求時にお送りしたセミナー無料クーポンをご活用ください。

■事前のお申し込みをお願いします。

■オンライン配信についての詳細は近日中にHP等でお知らせします。

◆人権啓発研究第42回兵庫県集会 日程決定！

日程と会場が決定いたしました。本会場の他、オンライン配信、サテライト会場など予定しております。詳細が決まり次第、ホームページ等でお知らせいたします。

日程：2021年11月20日（土） 会場：神戸市勤労会館

事務局から

- 娘の夫が生後4カ月のわが子に絵本『世界人権宣言』を読み聞かせている。「差別は嫌だ」「みんな人権をもっている」。思わず笑ってしまったが、人権の幼児教育、ちょっといいかも。(K)
- コロナ禍についての報道があふれている。情報を発信する側、受け取る側の能力は限られているので、意識的に様々な情報を得るように留意しなくてはと思う今日頃ごろ (ka)
- オリンピックが止まらない。というか、止めるべき人が止めない。「日本はどのように戦争を止められなかったのかとずっと疑問だったが、今わかった」というネットの書き込みを見た。同感。本当にやるんですか？(H)
- 絵本好きの娘ちゃん。本屋さんで知ってる絵本を見つけると、超ハイテンションで「ママ見て！」と教えてくれます。つらくて泣くことも多々ありますが、我が家に生まれてきてくれたことに感謝する毎日です。(ひ)